

市立柏原病院事務局 部長マニフェスト（評価及び検証）

重点課題 ①

悪性新生物（がん）や心疾患等の必要度の高い
医療に対する体制の充実を図る

部分達成

（作成日）平成 25 年 8 月 23 日

戦略課題の目標

- 大阪府がん診療拠点病院の指定を受ける
- 循環器疾患に対する検査・治療の充実
- 呼吸器疾患に対する検査・治療の充実

（評価日）平成 26 年 1 月 31 日

セルフレビュー

- 大阪府癌診療拠点病院の指定を受ける要件である「癌患者さんに対するセカンドオピニオン外来」、「院内がん登録」、「緩和ケアチーム」の組織作りを実施した。
- 診療所等からの「循環器疾患の問い合わせ、患者紹介」を円滑に進めるため、当院の循環器医師が携帯電話を持つ「循環器サポートコール体制」を構築した。
- 睡眠時無呼吸症候群の検査・治療体制を確立し、週 3 日の診察枠を設けた。

施策推進上の目標

- 関連大学（大阪市立大学・近畿大学）及び近隣医師会（柏原・八尾・藤井寺）との連携を強化し、悪性新生物（がん）の患者受け入れと治療に力を注ぐ。
また、化学療法のベッドを拡充するとともに、乳腺外来（乳がん）の枠の拡大や内視鏡（胃カメラ・大腸ファイバー）実施件数の増を図る。
- 循環器内科医師、看護師、臨床工学技士による循環器チームを充実させ、心疾患の早期発見、心臓カテーテル検査の増を図る。
- 呼吸器内科医師による睡眠時無呼吸検査、治療の充実を図る。

取組結果・実施状況

- 近隣医師会との連携を強化するため、当院の該当する診療科医師とともに市内診療所を訪問し、医師同士の連携を強化し、紹介・検査依頼件数の増加に努めた。
- 診療所等からの「問い合わせや検査依頼」を円滑に進めるため、当院の循環器医師が 20 時まで携帯電話を持つ循環器サポートコール体制を確立するとともに、毎週木曜日（救急病院の認定済）には、24 時間体制で緊急カテーテル検査・治療を行える循環器チームを発足させた。
- 寝ているあいだに呼吸が止まり、熟睡感がない、昼間の強い眠気、集中力の低下などの要因である睡眠時無呼吸症候群の一泊入院による検査・治療の必要性について広報に努めた。

アウトプット

• 腹腔鏡下手術件数	170 件
• 化学療法件数	1,400 件
• 乳腺外来患者数	290 人
• 内視鏡検査件数	3,300 件
• 心臓カテーテル件数	40 件
• PCI 件数	30 件
• 睡眠時無呼吸検査	24 件

取組結果・実施状況

• 腹腔鏡下手術件数	114 件
• 化学療法件数	1,100 件
• 乳腺外来患者数	540 人
• 内視鏡検査件数	3,580 件
• 心臓カテーテル件数	145 件
• PCI 件数	165 件
• 睡眠時無呼吸検査	31 件

アウトカム

市民が安心して、高度な医療を受けることができる。

取組結果・実施状況

市民が安心して、高度な医療を受けることができる。

(評価日) 平成26年3月19日

行政評価委員の評価

- 高度な医療体制を整備されたなど、柏原病院は変わりつつあると感じている。『市立柏原病院新改革プラン』に沿って、さらなる経営改善に取り組まれない。
- 市民病院と地域診療所の連携を進めることは評価できる。
- アウトプットに示される取組結果は、採算をとれているのか不明である。

救急医療体制の充実

達成

(作成日) 平成 25 年 8 月 23 日

(評価日) 平成 26 年 1 月 31 日

戦略課題の目標

- 現在、木・土・日曜日に、内科・外科・小児科において時間外診療を行っているが、現体制で可能な部分から週 1 回程度の救急告示を行い、その他の曜日の時間外診療については現状を維持する。
- 救急告示に際して地域性及び市民ニーズを考慮した場合、救急協力診療科として、内科・循環器内科・外科・消化器外科・整形外科の 5 診療科を目標とする。

セルフレビュー

- 現在、木・土・日曜日に、内科・外科・小児科において時間外診療を行っている内、木曜日救急告示に向け、平成 25 年 7 月に大阪府へ申請を行い、平成 26 年 1 月 26 日付けで、救急病院の認定を受けた。
- 救急協力診療科として、内科・循環器内科・外科・消化器外科・整形外科の 5 診療科の認定を受けることができた。

施策推進上の目標

- 救急告示の指定（平成 26 年 1 月）を受けるまでに、当面、日勤帯における救急体制の整備を充実させる。さらに、救急搬送を円滑に行えるよう救急隊から救急担当医師（内科・外科）に直接電話が繋がる「ホットコール」体制を確立させる。
- 柏羽藤消防組合、八尾、東大阪消防署との連携を強化し、救急患者の獲得に努める。

取組結果・実施状況

- 救急告示の認定を受けるまでに、日勤帯における救急体制の整備を充実させ、救急搬送を円滑に行えるよう救急隊から救急担当医師（内科・外科）に直接電話が繋がる「ホットコール」体制を確立させた。さらに、平日の 9 時から 17 時については、循環器疾患の救急患者の受入体制を確立したことから、救急隊へも「循環器サポートコール」の周知に努めた。
- 柏羽藤消防組合、八尾、東大阪消防署との連携を強化するため、

当院の取組状況を報告するとともに、「ホットコール」「循環器サポートコール」の活用を要望した。

アウトプット

- ・救急受入件数 610件
- ・救急断診率 25%

取組結果・実施状況

- ・救急受入件数 620件
- ・救急断診率 25.9%

アウトカム

木曜日の24時間、救急体制を充実させることにより、急に発病した場合でも安心して受診することができる。

取組結果・実施状況

木曜日の救急体制、土・日曜日の時間外診療により、急に発病した場合でも受診することができる体制はできた。今後、更なる充実を検討していきたい。

(評価日) 平成26年3月19日

行政評価委員の評価

- ・救急体制を整備され、市民サービスの向上につながると考える。
- ・しかしながら、依然として柏原病院に対する市民の不信感があり、積極的なPR活動に努められたい。
- ・さらなる医師の資質向上を求める。

重点課題 ③

健全経営

取組中

(作成日) 平成 25 年 8 月 23 日

(評価日) 平成 26 年 1 月 31 日

戦略課題の目標

平成 27 年度末までに、「経常収支の均衡」、「不良債務の解消」を図る。

セルフレビュー

平成 27 年度末までに、「経常収支の均衡」、「不良債務の解消」を図るため、病院職員が全力をあげて取組中である。

施策推進上の目標

・平成 25 年 3 月策定の「市立柏原病院新改革プラン（市立柏原病院八策）」を着実に実行する。

市立柏原病院八策

- ① 医療の方向性の明確化
- ② 職員のスキルアップ
- ③ 接遇教育の徹底
- ④ 病院環境の整備
- ⑤ 診療単価のアップ、適正収益の確保
- ⑥ コストの削減
- ⑦ 広報、地域連携の強化
- ⑧ 訪問看護の取組

取組結果・実施状況

市立柏原病院八策の進捗状況

- ① 医療の方向性の明確化(循環器・癌疾患への対応、慢性期病床 10 床分の確保)
- ② 職員のスキルアップ(オープンカンファレンスの実施)
- ③ 接遇教育の徹底(接遇委員会による研修、職員による自己評価等の実施)
- ④ 病院環境の整備(院内掲示板・案内図等の見直し、新たな飾り付けを実施)
- ⑤ 診療単価のアップ(年々アップしているが府平均に向け努力中)
適正収益の確保(更なる努力が必要)
- ⑥ コストの削減(部門ごとのチェックリストにて努力中)



- ⑦ 広報、地域連携の強化(積極的に取り組んでいるがさらに強化が必要)
- ⑧ 訪問看護の取組(今年度は着手開始した)

アウトプット

・常勤医師数	39名
・人間ドック受診者数	1,440名
・オープンカンファレンスの実施	132件
・送迎バス利用者数	14,450人
・入院診療単価	40,000円
・外来診療単価	8,800円
・材料費比率	20.5%
・薬品使用効率	115%
・公開講座・交流会開催回数	15回
・患者紹介率	36%
・患者逆紹介率	31%
・訪問看護回数	12回

取組結果・実施状況

・常勤医師数	38名
・人間ドック受診者数	1,462名
・オープンカンファレンスの実施	144件
・送迎バス利用者数	17,080人
・入院診療単価	42,000円
・外来診療単価	8,400円
・材料費比率	26.9%
・薬品使用効率	107%
・公開講座・交流会開催回数	15回
・患者紹介率	36.9%
・患者逆紹介率	29.5%
・訪問看護回数	8回

アウトカム

経営の安定化を図ることにより、地域住民に対し、より安全で安心できる医療を継続して提供することができる。

取組結果・実施状況

経営の安定化を図ることにより、地域住民に対し、より安全で安心できる医療を継続して提供するため、鋭意努力中。

(評価日) 平成26年3月19日

行政評価委員の評価

- 『市立柏原病院新改革プラン』の進捗に向けて事務局職員が果敢に取り組まれていることがディスカッションで理解することができた。
- しかしながら、プランに示される目標が平成27年度までに達成できるか疑問である。
- 目標年度である平成27年度に向けて、不良債務の解消に取り組まれることを期待する。基準外繰り入れの解消を達成することを期待する。
- 入院患者、外来患者が減少傾向にある。その原因分析が必要と考える。
- 柏原市の人口規模、隣接市を含めた医療機関を勘案すると、総合病院ではなく、病院機能の特化を進めるべきと考える。経営改善の観点からも検討願いたい。